



02-1_美里町 | こどもデータ連携実証事業の検証に係る調査研究

*総括管理主体：各担当部局からのデータを組み合わせて判定ロジック等を用いて人によるアセスメントの補助となる判定を行う部局
*保有・管理主体：教育・保育・福祉・医療等のそれぞれの分野に関するデータを保有する担当部局
*分析主体：データを分析して総括管理主体が困難な状況にあるこどもを把握するための判定アルゴリズム等を作成する者
*活用主体：データの提供を受け人によるアセスメントやアッシュ型（アウトリーチ型）の支援につなげる者

▼自治体の概要

自治体名	美里町（埼玉県）	位置	参加関係者の体制、役割*			
人口	10,843人（2023年9月時点）		総括管理主体	保有・管理主体	分析主体	活用主体
担当部局名	美里町総合政策課		(庁内) ・ 総合政策課 (庁外) ・ -	(庁内) ・ 福祉課 ・ 保健センター ・ 教育委員会事務局 (庁外) ・ 群馬大学	(庁内) ・ - (庁外) ・ 両備システムズ	(庁内) ・ 福祉課 ・ 保健センター ・ 教育委員会事務局 (庁外) ・ 保育園および認定こども園 ・ 社会福祉協議会

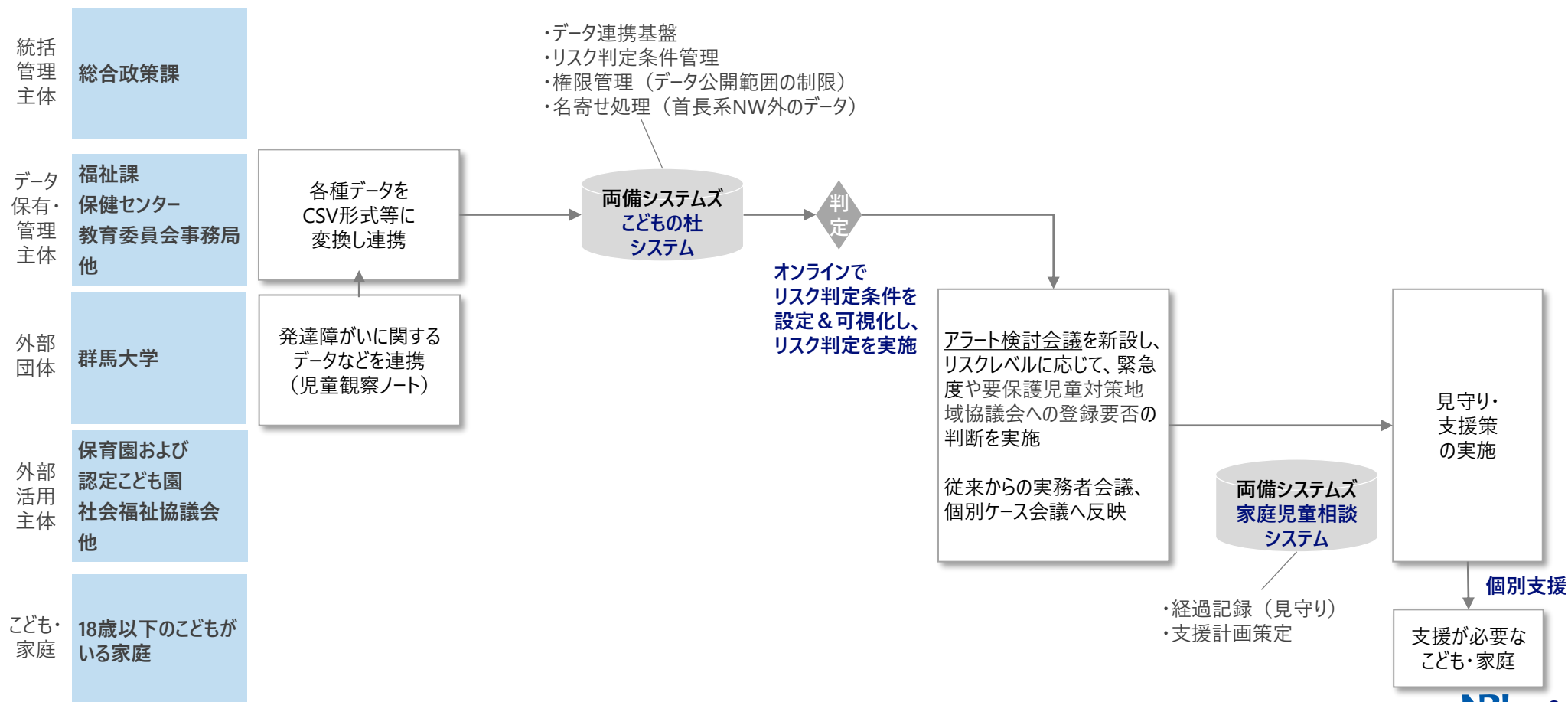
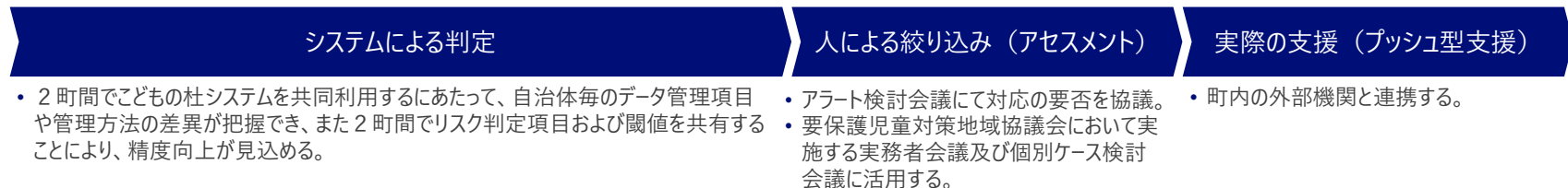
▼本事業の実施概要

背景、目的	背景 - 令和2年に美里町内でリスクの兆候があった子供が亡くなるという重大事例が発生した。この事例はすべての関係者が町内に身寄りが無い転入者で、目に見えるあざや傷がみられず、支援や介入の同意が得られず、実態が把握できないなどの状況であった。このような中でも客観的事実に基づいた判断がなされるよう関係機関と協力し、情報収集や介入の判断、情報共有などを行い、再発防止に取り組む必要がある。なお本実証事業は川島町（自治体システム標準化におけるデジタル庁のガバメントクラウド先行事業で共同採択の実績あり）と協業して取り組む。 目的 ① 支援が必要なこどもや家庭を発見するために、必要なデータ連携項目を整理し、困難の類型との関連性及び連携方法を明らかにする。 ② 地方公共団体内外で分散管理されていたデータの連携に必要な体制やシステム、個人情報の取り扱い等について整理する。 ③ こどもの支援に必要なデータを連携するにあたり、データ管理主体側での項目・範囲の絞り込み、適した共有のタイミング・方法について整理する。
対象とする困難の類型	虐待、産後うつ、発達障がい
本年度の取組概要	本年度末時点で到達したい姿（予定） - 目的に記載の3点が整理できており、令和5年度末にこども家庭庁にて公開予定の「地方公共団体がデータ連携に取り組むためのガイドライン」に則った実運用を開始すべく、令和6年度から準備に取り掛かれる状態にする。 上記に向けて本年度中に実施すること ① データ連携（リスク判定）項目、リスク閾値の検討および精査 ② 庁内外への連携体制、個人情報保護に関する検討および整理 ③ 庁外への情報共有のタイミング・方法の検討および整理 ④ 効果検証の実施（両備システムズの「こどもの杜システム」を活用し、潜在的なリスクを持つ家庭へ支援ができるかシミュレーションを実施）

02-1_美里町 | こどもデータ連携実証事業の検証に係る調査研究

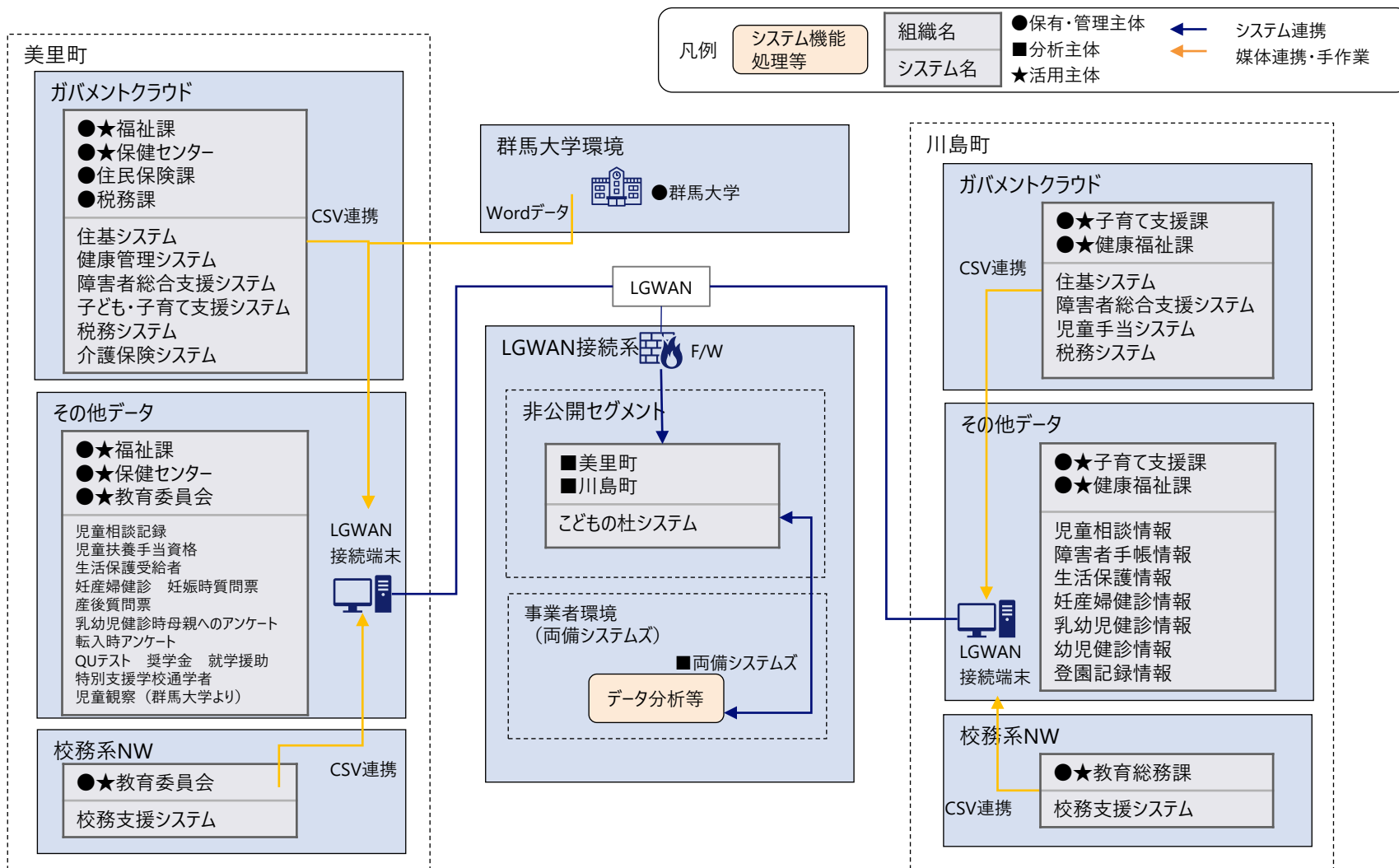
▼こどもデータ連携による、支援業務プロセスの概要

- こどもの杜システムに各種データを連携し、リスクアセスメントに活用する。
- 分析結果をもとに、地方公共団体外の支援組織や群馬大学の知見を活かし、こどもや家庭への支援の必要性を精査し、適切な支援方策を検討した上で対応を実施する。



▼データ連携方式

- LGWAN系ネットワークの非公開セグメントにシステム（こどもの杜システム）を構築。連携方式は媒体連携である。
- 美里町・川島町でDBサーバは分けて所有し、アプリケーションは共同利用する。
- LGWAN接続とし、FWを設置する。（本実証事業ではインターネットは使用しない。）



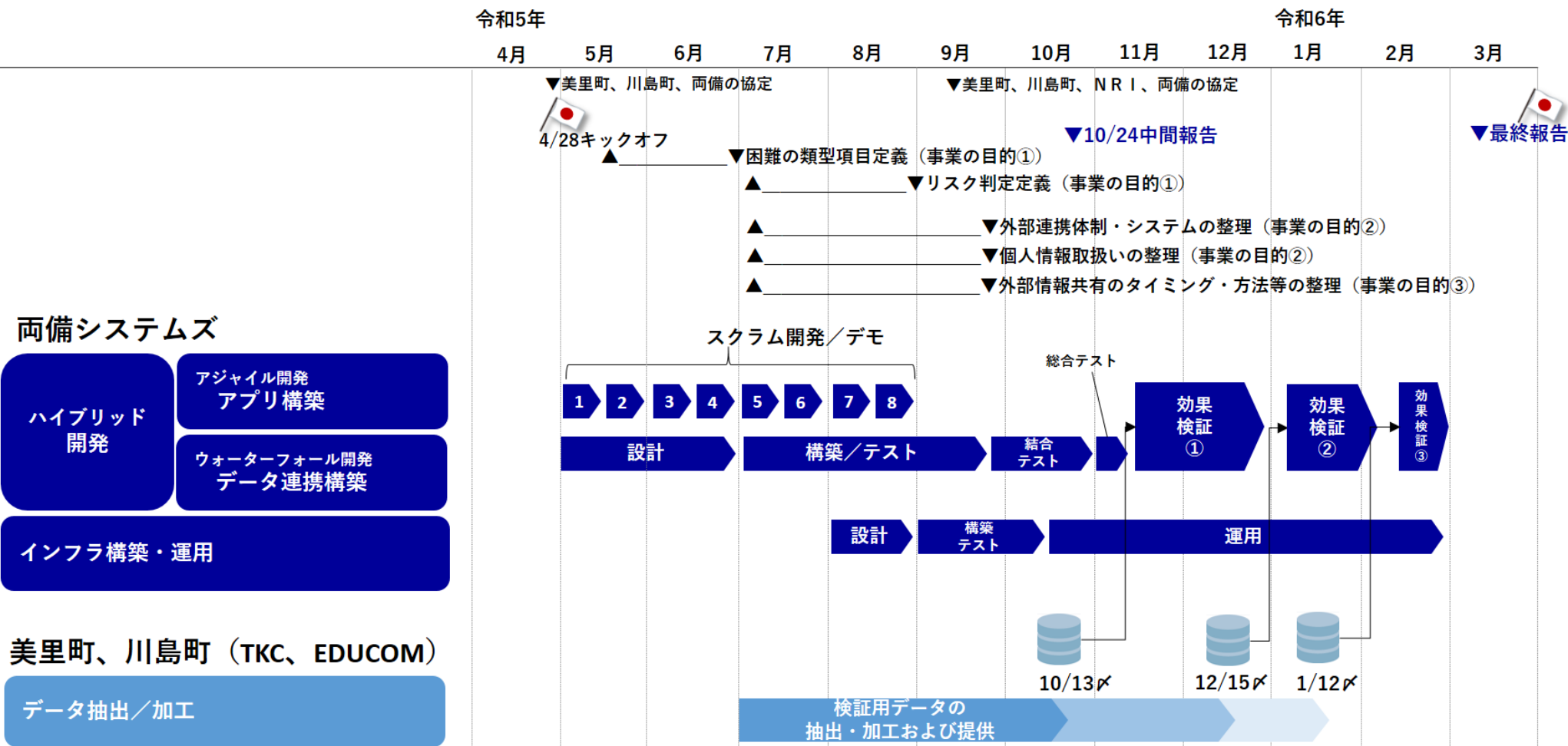
▼本年度事業の進捗、課題等

	実施方針（本年度中に実施すること）	本年度、実施してきたこと	直面した課題、及び本年度実証における対応策（案）
利用するデータ項目の 選定、及びデータの準備	- 政策目的や現状における課題を明確にし、具体的なユースケースを策定。 - 美里町児童虐待死亡事例検証報告書におけるシーンを想定し、データ項目候補を選定。	データ連携項目の選定。 （群馬大学からデータ受領）	（課題）関係各社との契約遅延により、スケジュール全体が遅延。 （対応策）データ連携および効果検証スケジュールを関係各社と調整の上、変更済。
判定基準*の構築・精査 *支援が必要と考えられるこども等を データにより抽出するための判定ロジック	厚労省の死亡事例等の検証によるリスクポイントや、美里町で既設のリスクアセスメントシートをもとに、自治体職員および両備システムズの業務有識者の知見よりロジックを検討。	左記に加え、こども家庭庁提供の「基本連携データ項目案」よりロジックを検討し、リスク判定定義マトリックスへ整理。	（課題）リスク判定に用いる項目および閾値について、根拠をもって決断できる専門家が不在で、業務有識者の知識・経験から手探りで設定している。 （対応策）「基本連携データ項目案」に加え、自治体固有分を仮設定し、効果検証時に精度向上を継続予定。
個人情報の適正な取扱いに 係る整理 （法的整理、手続き等）	弁護士と連携し、個人情報保護法における利用目的の特定、利用目的以外の目的での内部利用及び外部提供の整理等を実施。	検討中	（課題）実証事業ガイドラインに則った個人情報保護の整理が必要だが、検討不十分な観点や内容が残っている。 （対応策）NRI提供の「情報照会項目（個人情報保護）シート」で検討不十分な内容を把握した上で、他の実証団体のガイドラインや弁護士のサポートにより補完予定。
システム*の企画・構築 *自治体によるが、データ連携、システム判定、 判定結果の表示・伝達などを行うシステム	「こどもの杜システム」を2 町間で共同利用。 - 困難の類型に係る項目をデータ連携し、リスク判定を行い、支援が必要なこどもや家庭を可視化。	- データ連携項目の選定。 （群馬大学からデータ受領） - リスク判定条件と閾値の設定。	（課題）困難の類型（虐待、産後うつ、発達障がい）とデータ連携項目が1対1にならず、複合になる。 （対応策）項目定義用のマトリックスを設けて整理済。
システムによる判定の実施	検討したリスク判定ロジックおよびリスクレベルを「こどもの杜システム」のオンライン機能で設定し、リスク対象者を可視化。	令和5年11月中旬から開始予定。	
判定されたこども等を対象とした、 人による絞り込み（アセスメント）、実際の支援の実施	- リスク判定結果の妥当性を検証し、リスク閾値の精度向上を実施。 「こどもの杜システム」と「家庭児童相談システム」を活用し、支援が必要なこどもや家庭に対して、適切な支援が行えるかのシミュレーションを実施。	令和6年1月中旬から開始予定。	

...

以降、取組効果の分析に続く

▼参考資料（スケジュール）



▼参考資料（進捗状況）

実施タスク		完了期限	進捗	備考
事業の目的①	困難の類型項目定義	6/30	完了	
	リスク判定定義	8/31	完了	美里町9/20に完了 川島町10/13に完了
事業の目的②	外部連携体制・システムの整理	9/29	完了	
	個人情報取扱いの整理	9/29	遅れ	NRI提供の「情報照会項目（個人情報保護）」で整理中
事業の目的③	外部情報共有のタイミング・方法等の整理	9/29	完了	
アプリ構築	アジャイル（スクラム）開発 & デモ（8回）	8/31	完了	効果検証する上での不足機能は継続開発
データ連携構築	ウォーターフォール開発	11/9	遅れなし	10月 結合テスト 11月上旬 総合テスト
効果検証	1 回目	12/27	未着手	
	2 回目	2/9	未着手	
	3 回目	2/29	未着手	